

インターバンクの声（2015年6月22日）

ギリシャの債務問題合意を目指すユーロ圏財務相会合の他には欧米市場ともに主要経済指標の発表もなく、当初は比較的穏やかな週末相場になるだろうとの予想がもっぱらだった。しかし、ギリシャ問題の進展に対し、今までになくデフォルトの可能性を懸念するような見方が強まったこともあり、例によって安全資産と見做される円買いが米中長期金利の低下とともにニューヨーク市場の序盤から動き出してしまった。米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げについては、9月での期待感を残しながらも年内実施は堅いだらうとの予想が根強いものの、金曜日はFRBの利上げとは切り離されたギリシャ問題解決への期待が弱まる中での質への逃避による金利低下で、しかも下げ幅が6～7ベーシスと決して小幅ではない下げ幅となると、一番影響を受けやすい通貨ペアはドル円というお馴染みのパターンだ。一旦小幅にドルが買い戻される局面もあったが、ダウ平均の下げ幅が拡大すると再びドルの上値が重くなった。どうにか122円台中盤で下げ止まっているが、このレベルは10日の黒田日銀総裁の「実質実効為替レート」問題で下げた安値。このレベルを下抜けてしまうと5月26日以前の121円50銭でドルの上値が抑えられていた2ヵ月間ほどのレンジ相場に戻る可能性もあるだけに、今週以降も122円台中盤が下支えられるかどうかは要注目だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。